

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100565		
法人名	有限会社 すずらん		
事業所名(ユニット名)	楠見グループホームすずらんA		
所在地	和歌山県和歌山市楠見中26-1		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成29年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様も職員も楽しく過ごせ、家族様や友人、地域の方々がいいつでも遊びに来て下さるような明るい事業所を目指しています。法人の「真心介護」という理念を実践していく事を各ユニットごとに常に意識し、毎日の生活を送っています。各入居者様のカンファレンスを定期的に開催する事により、一人一人の状況把握、ニーズや希望などを皆で共有し、次回のケアプランにも繋げていくという事に現在力を入れています。また、月一回内部研修を行い、職員のスキルアップを図っています。これらの事からサービスの質を向上できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の処遇については、自己評価及び外部評価結果を踏まえて、職員が積極的に意見や提案を出し合いながら「真心介護」を実践している。また、事業所の方針でもある「職員が主体的に利用者の生活を支える」という姿勢で取り組まれている。健康管理や医療面では、かかりつけ医と事業所の看護師が連携し、日頃の対応はもちろんのこと、緊急時にも迅速な対処が可能であり、利用者及び家族等にとって安心のできる体制になっている。地域との繋がりは事業所の重点課題の一つであり、自治会の活動を通して、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「真心介護」という法人の理念を常に意識できるように掲示している。またユニット毎に、その理念を実践できるようにと職員で考えたスローガンを掲示している。	法人の理念を、より具体的にしたユニット毎のスローガンは、職員間で検討を経て、職員自ら決定したものであり、意識づけに効果を発揮している。管理者と職員は理念とスローガンを共有しながら日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会に加入し、会合等にも参加している。地域の方々とは、運営推進会議や慰問・盆踊りを通して交流を深めている。	散歩や買い物の際の地域の方々との交流は日常的である。中学生による職場体験学習の受け入れ、保育園児の訪問も定期的であり、園児には利用者手づくりのプレゼントを手渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域との交流時や利用者様の家族様から相談を受けた時等に、介護に活かしてもらえる情報を提供できるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂戴した意見や情報を活かし、サービスの質の向上に努め、地域の一員として貢献できるように取り組んでいる。	運営推進会議の日程は予め決めており、参加者は都合をつけやすい。2か月に1回の開催時には、利用者家族・自治会役員・包括センター職員等が出席し、利用者の暮らしぶり、事業所の取組、外部評価結果等の報告や話し合いを行い、出された意見を活かしながらサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代行手続きや生活支援課の訪問等の事務的な関わりがほとんどであり、何かあれば相談しには行くが、密に取り合うまではできていない。今後はもっと連携を図っていきたい。	担当する包括センター職員は必ず運営推進会議に出席し、他の包括センターとも利用に関する打診時等にサービス内容を積極的に伝え、意見の交換を行う等連携を深めつつあるが、現状で十分とは考えず、さらに行政と双方向の協力関係を強めるための取組を進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて「身体拘束」の知識をしっかりと学び、何が拘束にあたるのか周知している。日頃のケアについても昼礼等で省みる機会を作っている。	職員が主体となって実施する内部研修及び外部研修の伝達を通し、代表者及び職員が拘束となる具体的な行為を正しく理解している。言葉による行動の抑制は生じやすいため、自己点検や相互確認を行いながら拘束の排除に努めている。玄関等出入口の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修を通して「高齢者の虐待」について学び擁護者としての義務等、権利擁護の知識を共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者様がいる事もあり外部の研修に参加した職員が内部研修を行い職員が知識を深め対応できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を入居者様、家族様に出来るだけ分かりやすく説明し不安や疑問等の軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の入居者様の意見や要望への対応について運営推進会議で推進委員の皆様へ伝え、会議や来所時に頂いた意見を昼礼や月例会議等で各職員へ伝え業務の改善に努めている。	利用者からは日々の暮らしの中で、家族等からは面会時や電話等で意見・要望を聞き取り、運営に反映させている。契約時には外部機関にも意見・要望を表せる旨を説明し、周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議・管理者会議を行い事業所会議で出した意見や要望を管理者会議で伝え、代表や会社の方針を月例会議などで職員に伝えるようにしている。	会議の場以外にも職員は自由に意見・提案を出す事ができ、管理者との定期的個人面談も行われている。事業所は運営にすべての職員が主体的に関わる事を基本としており、活発な意見・提案が利用者へのサービスの向上に繋がると考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、各職員の能力や資格保持状況等をふまえた給与体制となっている。また、管理者会議等では職場環境の整備などについて話し合う場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となり内部研修(勉強会)を実施したり、新人職員にも丁寧な指導を行っている。管理者においても代表者が、まめに対話する事により本人の気づきや意識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他法人との交流を常に図り情報の収集、職員同士の交流を促す事によってネットワーク作りに取り組んでいる。また、他事業所へ見学に行く事で自施設の改善に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかりと本人にもグループホームの説明を行い、本人の不安や疑問などを聞くようにしている。またいつでも話をしやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問、要望、困りごとや不安な事を伺い、事業所として出来る事、協力してもらいたい事を明確にし、安心して頂ける様支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時に、何が一番必要なのかを聞くように心がけ、入居希望の方であっても必要であれば他のサービスの紹介も行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する側であると意識を持たず、一緒に生活をしていくという意識を持つ様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族様の来所時に入居者様の状態をお伝えし、その状態に合わせた介護方法を家族様と共に考え支援に繋げられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	任意で、入居時にセンター方式のシートを家族様に記入してもらって関係の把握に努めている。面会の際に居てやすい環境を作り、また来ていただける様に声掛けしている。	知人の訪問を受け居室でゆっくりと過ごしたり、家族等との外出や入居前の住まいへの外泊等も実現している。また、同じ敷地内のデイサービスを利用する知人との交流もあり、一人ひとりの馴染みの人や場を把握し、家族等の協力を得ながら、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を日頃から観察し座席等を決めている。また、他者との交流が難しい方には職員が間に入り入居者様同士の交流が図られる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、困りごとがあればいつでも連絡頂けるように退去時にお伝えしており、お花見などに参加して下さる家族様もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一人一人の入居者様に寄り添い日々の暮らしの中での希望や要望の把握に努めている。緊急的な事はその日の昼礼等で、その他の事は会議やカンファレンスなどで検討している。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握を十分なものにするため、センター方式を部分的に活用し、これまでの暮らし方も参考にしている。困難な場合には職員個々の気づきをもとに、本人の視点に立って職員間で検討を重ねながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などのアセスメントを行うが、家族様にセンター方式のシート記入をお願いしており、情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子やバイタル測定、食事・水分摂取量、服薬状況や排泄記録等の記録を行い心身状態の把握に努めている。また、勤務交替時の申し送りや昼礼等でも現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のカンファレンスを計画作成予定月になるように実施しており、担当職員や本人様、家族様の意見を反映した計画とするようにしている。	本人及び家族等との話し合いや職員間での検討に加え、かかりつけ医・看護師等の関係者とも協議し、それぞれの意見やアイデアを活かした介護計画を作成し、モニタリングを通して進捗状況を見定めながら、必要に応じて変更を行う等現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子の記録を行う事で、職員全員が共有し現場で活かせるように努めている。又、カンファレンス及び状態の変化が見られた場合には都度見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・家族様の状況を知る為、日々のコミュニケーションを大切に、一人一人の入居者様のニーズに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(防災訓練・盆踊り)に参加させていただいたり、近隣の方々の知恵をお借りしながら楽しく張りのある生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医、緊急時の受診先を確認し、入居後の医療についても本人様、家族様の納得のいく形で行える様に支援している。	本人及び家族等の希望により事業所の協力医をかかりつけ医とする利用者がほとんどであり、連携が図られている。また外部の医療機関の受診を要する場合は文書で情報を交換するようにしている。緊急時にはかかりつけ医の迅速な対応が可能な体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と連携し、入居者様の日常の変化を都度報告し適切な処置や病院受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院に至るまでの経過や施設での状態等の情報提供を行う。退院時にはカンファレンスに施設看護師同行で参加し退院後安心して過ごして頂けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の対応についての説明を行い、入居者様・家族様の意向を確認している。入居者様にそのような対応が必要となってくれば、家族様、かかりつけ医、看護師とが連携し対応していく事を説明している。	契約時に本人及び家族等の意向を確認すると共に、段階毎に改めて確認をしながら対応している。医療的処置の必要性の度合いにもよるが、事業所での対応が可能な場合は、本人・家族等と話し合い、かかりつけ医・看護師等の関係者と方針を共有しながらチームで支援にあたっている。昨年度には2名の看取りを実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修、勉強会において定期的に学び、急変時や事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練(日勤帯・夜勤帯)を行っている。また、地域の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。	事業所独自の避難訓練を年2回マニュアルに基づいて実施している。備蓄品についても定期的に点検を行っており、日頃から職員が日常生活の各場面で、災害時の対応を念頭に置いての行動を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の尊厳を大切にし、各入居者様に合わせた対応を行うように努めている。またカンファレンス時には、呼び名などが本人に意思に沿っているのか確認するようにしている。	利用者の人格の尊重に繋がる呼称は姓を基本としているが、家族等の了承を得て本人の馴染んだ呼び名を用いる場合もある。利用者の個人情報については、ファイル等を鍵のかかる場所に保管する等管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様からの希望や要望だけではなく、言葉に表せない表情等にも気付けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の支援から本人の希望を聞き取り、出来る限り添える様にしている。買い物などの外出や食事時間の変更等、希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、好みの服など、各々の入居者様の希望に沿える様に声掛け等行う支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に希望を聞きながら、共に食事作りをしているが、もっと機会を増やしていきたい。	法人の方針で食事は業者であるが、配膳や後始末は利用者が行うようにしており、給食会議には必ず職員が出席し、希望を伝えている。また、食事作りの日を設定し、献立・買い物・調理・後片づけの一連の作業を利用者と職員と一緒にしている。自分達の手で育てた収穫物が食卓に上ることもある。折々に実施するおやつづくりも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様それぞれの状態を日々観察・記録し、その方に合わせた食事形態での提供を行っている。また必要に応じて家族様に本人の希望する食糧を持ってきて頂いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様には毎食後に口腔ケアを行ってもらっているが、必要に応じて介助している。義歯については週一回以上消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメント、排泄時間の記録を行っており出来るだけ自立した排泄を続けて行けるように支援している。	排泄の量や時間を記録する事でトイレ誘導が適確に行えるだけでなく、排泄の失敗やおむつ・パッド等の使用を減らす事ができる。利用者一人ひとりの力の向上のため、トイレでの排泄、更には排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬だけに頼らず、食事の献立や水分摂取量等にも気を付けている。また、機能訓練や散歩など機能訓練の時間も取り入れ便秘解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ユニットに対して浴室が一つしかないため、入浴日は設定している。日の融通は難しいが、週3回の入浴を実施しており、希望があれば時間帯をずらすなどして対応している。	利用者の身体機能に合わせて入浴しており、普通浴に負担が大きい利用者については、安心して入浴ができるよう併設する事業所の機械浴の利用もある。季節湯の実施は利用者の楽しみの一つである。入浴を拒み勝ちな利用者についても、日頃から良好な信頼関係が築かれているため、工夫し入浴が実現している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく日中も自由に自室で休んでいただいている。自室で快適に過ごして頂けるように空調等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局や看護師の指導にて薬の目的や副作用、用法、用量についての把握に努め、服薬に関しては入居者様の状態に合わせて介助を行っており、服薬後の状態の変化にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を知り、各入居者様に合った役割や楽しみを見つけられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などは各入居者様の状況に応じて出来る範囲で対応している。また、行きたい場所等日常の会話の中で聞き出し希望に沿えるよう家族様にも協力して頂いている。	屋外に出る事は五感刺激を得る機会であるため、事業所周辺の散歩や買い物等の外出を利用者の希望や状況に合わせて日常的に行っており、普段行けないような場所には、行事に組み入れたり、家族等に協力を依頼し出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状態に応じて、家族様と相談した上で同意があれば少額のお金を所持して頂いている。買い物の際には支払い等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人への電話はもちろん、家族様へ電話したい場合等も家族様の了承を得た上でできるように支援している。手紙やはがきに関しても意思を尊重し家族様と協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を維持し、快適に過ごして頂けるように空調も行っている。また、月ごとに壁飾りをし、季節を感じて頂けるように支援している。	共用空間には、壁飾りやソファや加湿器が備えられ、畳コーナーで洗濯物をたたむ利用者もあり、思い思いに過ごす事ができる居心地のよい生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の人間関係を職員が把握し、座席を考えている。また内階段の踊り場にソファを置いたり、共用空間の畳スペースで過ごしてもらうなど思い思いの過ごし方をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には入居者様の馴染みのものを置いて頂けるように入居時にお願している。また、入居後にご自身が作成したものや写真、お誕生日の色紙などを飾るようにしている。	各居室には部分的に畳が敷かれており、利用者の寛げる場がある。ホームごたつに足を入れ、訪れた知人と談笑する光景も見られる。居室は内側からの施錠も可能であり、職員は訪問の際には必ずノック・声かけを行う等プライバシーの確保にも十分な配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう各所に手摺を設置し、歩行の妨げとなるようなものを通路に置かないようにしている。		